

## 平成 30 年度プロジェクト研究実績報告書

【研究課題名】	千葉市シティセールスビデオ制作および若葉区民まつりでの子ども向けショーの開催
【研究代表者】	藤田 修平（東京情報大学・准教授）
【研究分担者】	高田 真吾（東京情報大学・総合情報学部 3 年） 土井 一太（東京情報大学・総合情報学部 3 年）
【研究の目的】	<p>本プロジェクトはシティセールスビデオ制作とワカバマンライブショーから成り立ち、いずれも地域活性化への貢献を目的として行われた。前者については、集客力のあるイベントから、限られた季節だけに運営される小規模の施設、さらには潜在的な観光資源というべき公共施設といった、多様な観光資源を抱える千葉市に対して、それぞれの観光施設やイベントの広報ビデオを毎年、継続的に制作して提供し、カテゴリーに分けてリスト化したウェブサイト（「千葉市・魅力チャンネル」）を構築してもらうことで、千葉市内外からアクセスを集めることを試みた。（シティセールスビデオは 2011 年に千葉市の協力を得て、伊藤敏朗教授が始めたプロジェクトで、その多くが伊藤ゼミで制作され、それを引き継ぐ形で今年度も行われた）。後者については、若葉区民まつりの会場が本学となったことから、映像ゼミも参加して、区民まつりを盛り上げようとしたもので、この祭りには子ども連れの家族が多く訪れることから、本学らしいコンテンツとして、学生自らが考案したキャラクターによる、映像と組み合わせた子ども向けライブショーを行うこととした。</p>
【研究報告】	<p>シティセールスビデオについては、泉自然公園内にオープンした自然共生型のアウトドア施設「フォレストアドベンチャー・千葉」と春から夏にかけて行われたレンタサイクルによる「里山サイクリング」（若葉ルート）を取り上げた。また、この 2 年間に納品したビデオと説明文の内容確認を経て、ウェブへの掲載を行ってもらった。これらの一部は地元のケーブルテレビ（ケーブルネット 296）で放映された。ワカバマンに関しては、子ども向けコンテンツであることを検討し、暴力的な内容を排したシナリオを準備し、民俗的な衣装デザインを用意して、AE プラグインソフトによって、前年よりも迫力あるエフェクトを制作し、公演を行った。</p>
【成果の公表】	<p>シティセールスビデオについては、「千葉市・魅力チャンネル」（<a href="https://www.city.chiba.jp/keizainosei/keizai/promotion/citysalesvideo.html">https://www.city.chiba.jp/keizainosei/keizai/promotion/citysalesvideo.html</a>）への掲載が行われた。加曽利貝塚の PR 動画については、シティセールスビデオとして、PR 大使「かそりーぬ」のアニメーションを用いた広報ビデオを制作し、納品した。若葉区民まつりではワカバマンライブショーをメディアサブホールで 2 回行い、それぞれ 15 人～20 人程度の来場者があり、公演後には多くの方々から写真撮影を求められ、順番に撮影を行った。アンケートによればかなり好評であり、公演後には映像ゼミで制作した映画の上映も行った。今回からチラシや会場案内で告知が行われ、千葉市観光協会「千葉市観光ガイド」のウェブサイト（<a href="http://www.chibacity-ta.or.jp/">http://www.chibacity-ta.or.jp/</a></p>

events/event/wkabakuminmatsuri) に「◆映画上映会 今年も登場”ワカバマンショー”」との記載があり、千葉市の「第26回若葉区民まつりを開催しました」のウェブページ

(<https://www.city.chiba.jp/wakaba/chiikishinko/documents/26kuminmaturi-kaisai.html>) に「ワカバマンショー開催」と書かれたチラシを見ることができる。

#### 【連携先・総評】

千葉市経済農政局経済部観光プロモーション課

本市では、市の持つ広報メディアでの効果的・重点的な情報発信を進めるほか、民間のメディアを活用して積極的に情報発信を行っている。

シティセールスビデオは、東京情報大学映像ゼミナールの協力を得て、市のイベントや施設等について動画による情報発信を行っており、学生による若い視点・感性により企画・撮影を行い、作品にして公開している。

動画公開には国内利用率の高いメディアである「You Tube」を活用し、現在 93 の動画を公開しており、再生回数 1 万回以上を誇る動画も複数ある。当該動画配信サイトは 10 代～30 代の若い世代の利用率が高いことから、学生が企画から制作まで実施することで、You Tube ユーザに向けた効果的な情報発信を実施できたものと考えている。